

上田市小中学校のあり方に関する基本方針(案) 趣旨及び概要

策定趣旨

全国的に少子化が進行する中、上田市でも小中学校の児童生徒数は減少を続けており、それに伴い、学校の学級数が減少する学校の小規模化が大きな課題となっています。

この課題に向き合う出発点として、今後の人口減少社会の中、多様化・複雑化していくといわれる未来の社会を見据え、単に学校の適正規模にとらわれるのではなく、これからの時代を生きる子どもたちを育むための望ましい学校のあり方とは何かを考えなければなりません。

そこで、上田市では平成 31 年1月に、外部の有識者や学校関係者などで組織する「上田市小中学校のあり方検討委員会」を設置し、「上田市小中学校のあり方研究懇話会」が平成 30 年3月に提言した5つの柱に沿い、子どもの成長にとって真に望ましい教育環境について議論を重ねてきました。

基本方針(案)の内容は、検討委員会でこれまで議論した内容をまとめたものであります。

概要

基本方針(案)は、上田市の今後の児童生徒数や学級規模の推計など小中学校を取り巻く現状を記載した第1章と、懇話会で提言された5つの柱に沿って検討してきた「上田市小中学校のあり方」について記載した第2章で構成されています。

基本方針(案)の中心となる、第2章の概要は次のとおりです。

1 目指す子ども像「上田市として、どういう子どもを育てたいのか」

予測が難しい未来を生きる子どもたちに身に付けてほしい資質や能力を、次のようにまとめました。

- ①主体的に課題に向き合い、解決に導く力
- ②自己肯定感、他者の大切さを認める感謝や思いやりの気持ち
- ③多様性を受容する力、コミュニケーション能力
- ④ふるさとへの誇り、愛着心
- ⑤夢や希望を持つこと、自立する力

2 「上田市として」の特色ある教育

学校における日々の教育活動は、学習指導要領に規定される各教科の目標や内容を踏まえて、さまざまに工夫された指導方法によって展開されています。上田市としての特色ある教育を、次のようにまとめました。

- ①郷土に誇りや愛着を持つための教育の充実
- ②体験する・本物に触れる教育の充実
- ③大学など高等教育機関と連携した教育の充実

3 縦の連携

子どもたちが生きる力を育むためには、一人ひとりの子どもの育ちや学びを連続したものととらえ、関係者が課題を共有しながら教育の環境を整えていくことが重要です。子どもたちの成長段階に応じた縦の連携という視点に立った上田市の教育環境について検討をし、次のようにまとめました。

- ①「幼保小中」のさらなる連携の強化
- ②高校や大学などとの連携
- ③義務教育学校等

4 横の連携

学校と家庭と地域が一体となって子どもたちの成長を支える横の連携が重要です。上田市の小中学校でも、それぞれの地域とつながった活動を展開していますが、さらなる推進のために必要な視点について検討をし、次のようにまとめました。

- ①学校と地域の関係
- ②コミュニティスクール
- ③企業と連携したキャリア教育
- ④共生社会の実現

5 学びの環境

(1)～(5)では、子どもたちが未来を力強く生き抜いていくために必要な力を育む、学習や生活の場として望ましい学校規模や学級規模、それを実現する方策等について、次のよう

にまとめました。

また、(6)では、学校施設の現状や上田市全体の公共施設への考え方について確認しながら、ハード面での学びの環境について検討をしました。

- (1)望ましい学校規模
- (2)望ましい学級規模
- (3)学校の適正配置
- (4)望ましい学校規模を確保するための方策
- (5)留意すべきこと
- (6)学校施設の整備と持続可能な行財政運営